

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	千葉大学				
取 組 名 称	学習成果基盤型教育による医学教育の実質化				
取組学部等	医学部				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11018	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	成績評価	FD・SD		
キーワード	学習成果基盤型教育、医学教育、卒業時到達目標、ファカルティー・ディベロップメント、教育評価部会				

＜選定理由＞

本取組みは、現状のカリキュラムが良く分析され、緻密に構成されたプログラムであり、今後のカリキュラムの改善の実現性が期待出来るものである。倫理やコミュニケーションに関する教育が実際にどのように重視されるかやや心配な面はあるものの、卒業時に的を絞った達成目標が具体的に示されており、医学部の取組みとして他大学のモデルになることが期待される。

既に実施されている「特色ある大学教育支援プログラム」の成果も踏まえて、今後さらなる努力を重ねられていくことを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

卒業時の学習成果を明示して、それを達成できるようにカリキュラムを設計する学習成果基盤型教育 (Outcome-based education, OBE)を導入した。我々は、中期計画の定期的なカリキュラムの見直しに沿って、医学教育の外部評価を受けた。卒業時に医学生が具有すべき能力を明確にし、それを修得させる教育の必要性が指摘されたため、6年間の学習成果に相当する卒業時到達目標 (卒業目標) を作成した。

これまでのカリキュラムでは6年間の医学教育で卒業目標を達成することは困難なため、現状のカリキュラムを全面的に見直すことになった。卒業目標と比較して現状のカリキュラムに欠落、重複がある場合は、新たな目標の追加や修正を行う。学生の能力を段階的に向上させるような順次性のあるカリキュラム構成とするために、各年次の科目の目標を修正する。更に修正された目標を達成できるような最適な教育方法と学習成果を適正に評価できる評価法を導入する。OBEが順調に導入され、実施されるためには、医学部長以下関係者全員がOBEについての情報を共有し、深い理解と相互の協力が欠かせない。この条件を満たすために関係者全員が参加して合意形成できるリトリートを開催する。新たなカリキュラムの実施には、それを実践する教職員の職能の向上が不可欠であり、OBEに必要とされる職能の修得を目標とするニーズにマッチしたファカルティ・ディベロップメントを企画、実施する。

新カリキュラムは学年制で導入されるため、年度ごとに新しいカリキュラムの方針が医学教育研究室で企画され、医学教育委員会で審議される。教授会での承認を受け、基礎・臨床カリキュラム部会によってカリキュラムが作成され、実施される。教育評価部会を新たに設置してカリキュラムの評価を年度ごとに行い、次年度以降のカリキュラムの改善に繋げる。このように企画、実施、評価、改善のPDCAサイクルを実施しながら、OBEを学年制で導入する。教育評価部会は導入されたOBEを短期(毎年)、中期(6年後、OBE導入後の最初の卒業時)、長期(8年後、卒業生の研修終了時)の各時期に検証し、その結果を公表すると共に、教育の改善に必要なデータを作成し、基礎・臨床カリキュラム部会と医学教育研究室にフィードバックする。取組期間の終了時(3年後)には、学外の医学教育の専門家による評価を受け、取組の改善に反映させる。

(取組の概要文字数： 999字)